

RSK山陽放送ラジオ 朝耳らじお5・5 二〇二一年五月十七日
永瀬清子の光を受けて vol. 2

アンターレス——さそり座への願い

小林章子（RSKアナウンサー）

伊藤正弘（RSKアナウンサー）

白根直子（赤磐市教育委員会熊山分室学芸員）

小林 第三月曜日のこの時間は、「永瀬清子の光を受けて」と題して、岡山出身の詩人、永瀬清子さんの詩や生き方、その魅力を永瀬さんのふるさと、赤磐市で研究を続けていらっしやる赤磐市教育委員会熊山分室の学芸員、白根直子さんにご紹介いただきます。白根さん、こんにちは。

白根 こんにちは。

小林 白根さん、前回の放送の後にラジオネーム「夢ちよびん」さんからこんなメールをいただきました。

永瀬清子さんのコーナー、楽しみにしていました。娘も一緒に聴いており、娘の母校の校歌を作られた永瀬さんのことにとっても興味を持って聴いていますよ。詩の朗読から感じるもの、想像する楽しい時間が増え嬉しく思っています。ありがとうございます。

白根 ありがとうございます。永瀬清子さんは、岡山県内の小学校から大学まで三十を超える校歌を作詞しています。

小林 そうなんですね。

白根 現在臨時休館中ですけれども、吉備路文学館で「吉備路の文学者となつかしの校歌」という特別展が開かれていて、永瀬清子さんをはじめ、有本芳水、小川洋子さんといった文学者が作詞した校歌が紹介されています。

小林 そうなんですね。文学者が作詞した校歌。すてきなんですね。また、緊急事態宣言が開けたらお出かけいただきたいですね。さて、今日は永瀬清子さんのどんな詩をご紹介しますか。

白根 昨日は、永瀬清子さんの生家の離れと釜屋の改修が終わり、

「清子の家」となり、そのお披露目会が開かれました。

小林 そうでした。新聞にも掲載されましたね。

白根 そうなんです。そこで、永瀬清子さんの家が舞台となった詩を紹介したいと思います。

小林 今日の詩はこちらです。

アンターレス——さそり座への願い

はなれの窓からは

水田をへだてて

新田山が おだやかに横たわっていた

その上にすれすれに

ぴったり さそり座のアンターレス

まるで巨きな束ね熨斗のようだった

或は横Sの字にもみえ、かがやいていた

その星座が その窓から母の部屋をいつも見守っていたのだ

母は亡くなる前に

下着類をすっかり真っ白に洗って

きちんと畳んでしまっておいた

亡くなる日にはその部屋の

障子も真っ白に張りかえて

自分の敷いた布団の上に倒れて

そして亡くなったのだ

帰するがごとく、と云う言葉のとおりだった

ああ私はそのようにはできず

ごたごたの書きつぶしの中で死ぬだろう

ペンをはなさず死ぬだろう

ただ願うのはアンターレス

あなたが私を見ていてくれて

母を守ったそのように

私をじっと見ていてくれること

いつかいつかその夏の夜に

私をみつめていてくれること――。

水田にうつたその二子山の形で

大きな唇のように私を包んでくれること――。

〔春になればうぐいすと同じに〕思潮社 一九九五年四月

小林 伊藤さん、この詩からどんな印象を受けますか？

伊藤 さそり座の（アンターレス）というのが、見守っているお母様

なのかなと解釈しました。今度はそのお母様、いわゆる（アンターレ

ス）が私を見守ってほしいというように感じました。

小林 白根さん、いかがでしょうか。

白根 おっしゃるとおりです。この詩は、永瀬さんが亡くなる二年

前の一九九三年六月に発表し、没後直ちに出版詩集『春になればう

ぐいすと同じに』に収録されました。この詩に書いたお母さんのエ

ピソードは、伊藤さんがおっしゃったようなことから、永瀬さんが

大切にされていたエピソードのひとつです。ですから、随筆や短章

に書き、講演で何度も語っていらっしやいます。

小林 そうなんです。この詩は、昨日お披露目会があった永瀬さ

んの生家にも掲げられているそうですね。

白根 そうなんです。この詩が掲げられた離れの部屋は、永瀬さん

のお母さんの居間でした。（アンターレス）はその窓から見えた当時

の風景に、お母さんの思い出を託しています。

小林 そうなんです。

白根 生家は明日から一般公開が始まるそうですので、永瀬さんと

同じ目線で、詩の世界を体感できるのではないのでしょうか。

小林 ところで、〈アンターレス〉は、「アンタレス」とも言いますね。

白根 〈アンターレス〉は、京都大学の「京都学派」の用語で「アンタレス」は、東京大学の「東京学派」の用語です。永瀬さんは、この他にも「遊星」など「京都学派」の用語を使っています。

小林 学派によって違うんですね。でも、どうして永瀬さんは、「京都学派」の用語を使っていたんでしょうか。

白根 鳥取市佐治天文台名誉台長の香西洋樹先生が明らかにされています。永瀬さんが京都帝国大学医学部に通う従兄を通じて天文学の知識を得て、〈アンターレス〉など「京都学派」の用語を使っていたことを指摘されています。私は、香西先生の講座でこのことを知り、大変驚きました。

小林 そうなんですね。〈アンターレス〉という言葉を使っていると、いうことで、そんなこともわかるんですね。永瀬さんは、お母さんのようにできずに「ペンをはなさず死ぬだろう」と書かれていますね。

白根 はい。永瀬さんは、この詩を発表した約一年半後、一九九四年十一月に井原市文学賞の選考中に倒れて入院されました。まるでご自分の最期を予言されたかのように、胸が痛むような思いがします。

小林 そうですね。〈アンターレス〉は、永瀬さんが亡くなられた時にも見守っていてくれたんでしょうか。

白根 永瀬さんは、一九九五年二月十七日の誕生日、午前六時二十五分にこの世を去りました。その時の空を星図で再現すると、〈アンターレス〉がありました。

小林 そうですか。

白根 永瀬さんの詩に登場する火星、木星、金星、月などの天体も空にあって、まるで天に帰る永瀬さんを見守るかのようでした。

小林 永瀬さんがお亡くなりになった時、〈アンターレス〉は、空で輝いていたんだと思うと、なんだか本当に感じるものがありますね。〈アンターレス〉は、永瀬さんやお母さんはずっと見守ってきたんですね。詩の最後に「水田にうつったその二子山の形」とありますが、これはいつ頃見られますか。

白根 赤磐市松木の辺りでは、六月半ばくらいから田植えが始まります。その頃には、新田山と道々山ミチツチヤマが水田に映って、唇のような形を見ることができると答えます。

小林 水田に映って二つの山の連なりが唇の形になるといって……、素敵ですね。今日も素敵な詩をご紹介いただきました。白根さんありがとうございました。

伊藤 ありがとうございます。

白根 ありがとうございます。

小林 伊藤さんの感受性もすばらしいですね。

白根 毎回コメントが楽しみです。

小林 伊藤（笑）。

小林 話にもありました永瀬さんの生家の一般公開は明日、十八日（火）から始まるということです。ただ、ボランティアの方が運営されているので、常に開いているというわけではございません。緊急事態宣言ということで、大人数での見学が難しい状態になっています。必ず事前にお電話での予約が必要です。予約やお問い合わせ

については、NPO法人永瀬清子生家保存会までお願いいたします。
白根さん、今日ご紹介いただいた永瀬さんと同じ目線での景色を
ご覧いただきたいですね。

白根 ご覧いただきたいですね。

小林 とても素敵に改修されているようです。白根さん、今日もあ
りがとうございました。

白根 ありがとうございます。

※二〇二一年五月十六日から六月二十日まで新型コロナウイルス感染症拡大防
止のため岡山県に緊急事態宣言が発出されました。

※記載されている情報は、二〇二一年五月十七日現在のものです。

〈参考文献〉

永瀬清子「アンターレス」『日本未来派』第一八七号 一九九三年六月

香西洋樹「星座の娘・永瀬清子」『資料集―永瀬清子の詩の世界 第五集』赤磐

市教育委員会熊山分室 二〇一八年三月



「水田にうつったその二子山の形」 撮影 大野勝男氏（熊山写真クラブ）